保健衛生マニュアル

はじめに

保育者は、子どもが心身ともに健康で、それぞれの順調な発育、発達を保障できるように、日々の健康観察とその対応を熟知し、また安全で清潔な生活環境の場を整える必要がある。

このマニュアルは、園児の健やかな育成を保障するため、日々の健康観察、健康診断の実施と対応、その後の経過観察、保護者との連携、園医や医療機関との連携、環境衛生の管理等を定めて、園児の健康の保持増進を図ることを目的とする。

1　保健年間計画について

園児の健康保持・増進のため、年間計画を立てて実施する。（別紙）

2　身体計測・各健診について

身体計測（体重・身長）	毎月初め
ぎょう虫・尿検査	４月　１１月
内科健診	６月　１１月
歯科健診	４月　１０月

・各健診の結果は、速やかに保護者に知らせ、治療や検査が必要な場合は早めの受診を依頼する。

・各健診を受けられなかった場合は、嘱託医か、かかりつけ医の健診を受け、結果を提出してもらう。

3　毎日の健康状態の観察

（１）朝の受け入れ時、下記の項目について観察する。

顔	顔つき　顔色　表情　活気　ボーっとしてないか　目やに　眼充血　鼻みず
全身	機嫌　爪の長さ　熱　皮膚の状態（発疹　とびひ等）

①　保育士の目で観察するが、保護者から子どもの食欲、睡眠、便、外傷などの聞き取りをしたり、子どもの身体に触れたりしてよく視る。

②　登園時から具合の悪い子を受け入れた場合は、緊急時の連絡を確認しておく。連絡が取りにくい場合、保護者の方から連絡を入れてもらう。

（2）保育中の観察は、下記の項目を参考に継続して行う。

耳	耳だれや浸出液　痛がる　聞こえにくい様子はないか
鼻	鼻水　鼻づまり　くしゃみ　息づかいが荒い　いびき
目	目やに　眼充血　涙目　見えにくい様子はないか
胸	咳　ゼーゼー音　ヒューヒュー音
口	口内炎　唇の色
おなか	便の状態　嘔気　嘔吐
おしり	オムツかぶれ
皮膚	湿疹　水いぼ　とびひ　発疹　ぶつけたあざ　傷
全身	発熱　活気　表情

①　個々の子どもの日頃の平熱を把握し、平熱より１℃以上の発熱（目安３８℃）の場合「お迎え」を依頼する。

②　気づいた症状や受診の必要があると判断した場合は、保護者に伝え対処してもらう。

③　下痢便や黒、赤、白色の便に注意し、おかしいと思った便は流さずにビニール袋に取っておき、保護者が受診時主治医に診てもらう。

④　０歳児は、体温、便の状態、食事摂取量を生活記録表に記入して、健康管理に役立てる。

⑤　感染症の疑いがある場合、軽々しく病名を口にせず、医師の診察を勧める。
（感染症対応マニュアル参照）

4　保育園内の衛生管理

１、保育室（本館・別館）　別表

２、調理室・調乳室　給食衛生管理マニュアル参照

３、園庭・砂場

（１）動物の糞や異物を見つけたときは、すぐに処理すること。

（２）園庭の遊具が便にて汚染した場合は、便の処理をした後消毒する。

5　プール管理について

子どもの健康状態の把握とプール水の管理に心がけ、プールを介して感染する病気を予防する。怪我や溺水に注意して安全第一とする。

（1）プールを使用するときは、十分に清掃し、清掃後はシートカバーをかけること。

（2）プールを使用する日の朝に水を溜めること。水は毎回入れ替えること。

（３）プールに入る前にトイレはすませ、シャワーで砂等を洗い流す。
（４）水に濡れたすのこは滑りやすいので、すのこの上は走らない。友だちを押さない。
（５）足の汚れを落とすための足洗い槽に入り、プールに入る。足洗い槽が汚れたら、その都度水の入れ替えをする。
（６）プール終了後もシャワーで全身を洗い流す。

６　ＳＩＤＳ（乳幼児突然死症候群）の予防について

（１）うつぶせ寝にはしない。
（２）月齢の低い子ほど身近におき、寝たらこまめに顔色・呼吸を観察する。
（３）寝具類は顔にかからないように注意する。
（４）枕元に不要のものは置かない。

７　与薬について

内服薬は保護者が飲ませることが基本であることを説明し、ゆえに主治医に可能な限り１日２回（朝・晩）の処方をお願いしてもらう。しかし慢性疾患等継続して飲んでいる場合や抗菌薬等治療上必要な場合の、保護者の希望時は預かる。その場合医師の処方した薬のみとする。

間違いのないように気をつけて与薬する。

※　別紙「与薬についての保護者の方へのお願い」「与薬依頼票」を熟知すること。

８　怪我や事故の予防・対応について

・室内、室外の遊具類の備え付けは安定しているか。不安定の場合はすぐに処置すること。
・棚等の上に不安定なもの、落ちて怪我をすると判断出来るものは、絶対に置かないこと。
・日常木登りする樹木等に枯れた枝等があればすぐに処置すること。

※　事故の予防・対応については、「危機管理マニュアル」６参照

①　外傷について

（基本）　・観察する。（すり傷、刺し傷など傷の種類を早く察知する）
・清潔にする。
・止血する。

種　類	手　当
すり傷	・水道水でよく洗い、消毒し、救急ばんか滅菌ガーゼを当てる。
切り傷	・水道水でよく洗い、圧迫して止血し、消毒をして救急ばんか滅菌ガーゼを当てる。
とげ	・とげ抜きで取り、消毒をして救急ばんを当てる。

種　類	手　　当
刺し傷	・刺し傷の場合は、感染や破傷風菌の危険度が高いので、消毒薬ができるだけ奥に入るよう傷を開くようにして消毒をして、滅菌ガーゼを当てる。 ・汚い場所で受傷した時は、必ず受診する。
咬みつかれた傷	・水道水で洗い、消毒し、冷湿布する。 ・動物に咬まれた場合は、水道水で洗い消毒後受診する。
打撲を伴う傷	・傷の手当てをしてから冷湿布する。

②　打撲について

（基本）　・観察が第一である。（部位、意識、顔色、冷や汗、眼球・鼻孔・耳孔などからの分泌物の有無）

種　類	症　　状	手　　当
頭を打った時	1　打った後意識があり、元気普通に遊んでいる。機嫌、頭痛、嘔吐、徐脈に注意する。 一周間は経過を観察する。	・静かに寝かせて頭を冷やして様子をを見る。 ・たんこぶは十分に冷やす。 ・創が大きく出血がある場合や、頭痛嘔吐がある場合は受診する。
	2　打った後数分間意識がなく、その後気がついた場合。	・顔を横向けに静かに水平に寝かせ救急車を呼ぶ。
	3　意識がなく顔面蒼白、冷汗、眼球の変化、鼻孔・耳孔からの分泌物のある場合。	・顔を横にして気道確保し、みだりに動かさず、救急車を呼ぶ。
腹を打った時	1　打った後元気に遊んでいる。	・要観察。 ・３日間は血尿、血便に注意する。
	2　激しく痛みを訴える。顔色が悪くなる。 冷汗が出る。吐き気がある場合。	・横向けに寝かせ様子を見る。 ・症状が続けば病院に受診する。
	3　意識がない、吐く、腹が硬くなった場合。	・急を要する。救急車を呼ぶ。 ・顔を横にして寝かせ、気道確保する。
胸を打った時	1　元気があって、肩腕を動かしても痛くない場合。	・そのまま様子を見る。 ・パテックスを湿布する。
	2　顔面蒼白、冷汗、激痛のある場合は、肋骨骨折の疑いがある。	・救急車を呼ぶ。

③　骨折等について

種　類	症　　状	手　　当
骨折	激しい痛み。　変形する。　腫れてくる。 動かせない。　冷汗が出る。 気分が悪くなったりする。	・救急車を呼ぶか、整形外科に受診する。 ・骨折部を動かさない。（自分で支えられるのであれば自分で支えさせる）
捻挫	動かせるが痛がる。しばらくして熱を持ち、腫れてくる。	・冷湿布をする。 ・動かさないようにして整形外科に受診する。
脱臼	肩、肘、指、あごなど脱臼しやすい。自分で動かせない。激しい痛みと腫れ。	・三角巾などで軽く固定して整形外科に受診する。
肘内障	子どもの手を強く引いた時、転んだ時に起こりやすい。痛がって泣くがしばらくすると遊び始める。 元気がよいのに患部側の手を使おうとしない。	・患部を安静にして整形外科に受診する。

④　火傷について

種　類	症　　状	手　　当
火傷	１度　皮膚が赤くなる。 ２度　水疱ができる。 広範囲　ショック症状に注意する。（顔面蒼白、冷汗、嘔吐、意識もうろう、意識消失）	・水道水を流しっぱなしにして20分～30分冷やす。（ヒリヒリしなくなるまで）衣服をつけている場合はその上から冷やす。 ・水疱を破らないよう滅菌ガーゼで被い受診する。 ・ショック症状のある場合は冷やさないで救急車を呼ぶ。

⑤　ショックについて

種　類	症　　状	手　　当
ショック	顔面蒼白。冷汗をかく。のどがかわく。 意識がうすれる。呼吸が苦しそう。 脈が速く弱い。皮膚が冷たく湿っている。	・救急車を呼ぶ。救急車がくるまで、衣服をゆるめ、全身を毛布などで保温する。 ・水分を与えてはいけないが、どうしても欲しがる時は、唇を湿らせる程度にする。

⑥　熱中症について

種　類	症　　状	手　　当
日射病 熱射病	最も危険な状態。 高温、多湿下で吸収熱が放熱量を上回り、急激に体温が上昇し、うつ熱の状態。 全身発汗から突然の発汗停止へ。頭痛、めまい無気力→意識消失、けいれん。	・涼しいところで衣服をゆるめて、足を高くして静かに寝かせる。 ・首や脇の下、そけい部を冷やし、うちわなどで風を送る。 ・意識がしっかりしていたら、塩分を含んだ水を与える。 ・その後受診する。 ・けいれん、意識がない場合は、救急車を呼ぶ。 ※経口補水液の作り方 水１ℓに砂糖小さじ４、塩小さじ半分
熱疲労	夏期の高温環境下での多量の発汗で、脱水症状をおこしたもの。 めまい、頭痛、一過性の意識障害。	
熱けいれん	大量の汗をかき、水だけを飲み塩分不足になり、痛みを伴なった筋肉の収縮が起こった状態。	

⑦　ひきつけ・熱性けいれんについて

種　類	症　　状	手　　当
ひきつけ	眼が上がり、歯を食いしばり、体が硬くなる。 顔面蒼白、意識を消失する。	・衣服をゆるめ静かに寝かせる。 ・身体を揺すったり大声で呼んだりしない。 ・顔を横に向け、誤飲に注意する。 ・時間を計り、５分以上の発作が続く時は救急車を呼ぶ。
熱性けいれん	熱性けいれんは、体温の上昇をともなう。 上、下肢のガクガクとしたけいれん。	

⑦　誤飲について

種　類	症　　状	手　　当
咽頭・気管につまった時	咽頭に異物を詰まらせた時は、眼を白黒させて息を苦しそうにする。 気管に異物が入ると激しく咳をしたり、呼吸が止まって顔色が赤→紫→蒼白となる。	・呼吸してるか、確認する。 ・窒息状態にある時は、急いで救急車を呼ぶ。 ・後ろから腰を抱いて頭と手を下げさせ、背中を強くたたく。 ・意識が消失したら、気道確保、人口呼吸を行ない、救急車を待つ。
毒物を誤飲した時	繰り返し激しい吐き気と嘔吐。 呼吸、様子がおかしい。顔色が悪い。 けいれんを起こしている。意識がない。	・何を飲んだか確認する。 ・救急車を呼ぶ時に、牛乳か水のどちらを飲ませるか、また、吐かせて良いものかどうか確認する。 ・吐いたものを持参し、受診する。

⑨　誤食時（即時型アレルギー）について

アナフィラキシーショックとは

即時型のアレルギー症状が皮膚症状にとどまらず、呼吸器や消化器など複数の臓器に強い症状が現れることをアナフィラキシーと呼びます。さらに血圧低下や意識障害を伴う症状は、「アナフィラキシーショック」といわれ、生命の危険を伴う場合もあります。したがって、過去にアナフィラキシーショックを起こした食品を食べた場合は、厳重な観察と早い対応が必要です。

<table>
<tr><th>状　態</th><th colspan="2">手　　当</th></tr>
<tr><td>アレルゲンを含む食品を口に入れた時</td><td>口内の違和感を訴えたら、口から出し、口をすすがせる。</td><td rowspan="4">・医療機関を受診するよう保護者にお願いするが、症状により救急車を呼ぶ。</td></tr>
<tr><td>皮膚につけた時</td><td>さわった手で目をこすらないようにさせ、洗い流す。</td></tr>
<tr><td>眼に入った時</td><td>すぐに洗眼する。</td></tr>
<tr><td>皮膚の発赤、じんましんが出る</td><td>発赤部や発疹をひやす。</td></tr>
</table>

⑩　喘息発作の対応について

状　　態	手　　当
咳が続き、息苦しさの訴えがある。ゼーゼーが聞かれる。 ひどくなるとヒューヒューやゼーゼーが強く呼吸困難になる。	・様子を観察し、水分を少しずつ多めにとらせ、お迎えを依頼し、受診してもらう。

⑪　口の中のけが、鼻出血について

種　類	症　　状	手　　当
唇の損傷	出血や腫れ。	・うがいをして冷やす。 ・出血は圧迫して止める。
歯肉損傷	内出血を起こして紫色に腫れる。 切れて出血する。	・うがいをする。 ・出血時は圧迫して止める。
歯の損傷	歯がぐらつく。 歯が抜ける。 歯が折れた。	・歯が抜けたり、折れた場合は、汚れが落ちる程度に洗い、牛乳の中に入れ、すぐに受診する。
舌の損傷	切れて出血する。	・程度により受診する。
鼻出血	鼻をいじったり、打撲により出血する。	・出血している方を圧迫して止血する。

⑫　異物混入について

種　類	症　　状	手　　当
耳の異物	虫の場合 　ガサガサと音が聞こえたり、痛みを伴う。	・明るい光を当てて虫を誘い出す。
	水の場合 　ボアーンと耳の詰まった感じがある。	・入った方の耳を下にして静かに寝かせる。
眼の異物	砂の場合 　ゴロゴロした痛みがある。	・眼をこすらない。 ・水道の流水でよく洗い流す。 ・眼科に受診する。
	鉄片、ガラス、木片などの場合 痛みや流涙が止まらない。	・ただちに眼科に受診する。
鼻の異物	鼻が詰まった感覚がある。	・異物の一部が見える場合は、入っていない方の鼻を押さえて強くかませる。 ・出ない場合は耳鼻科に受診する。
のどの異物	魚の骨が刺さった場合、唾液を飲むと痛い。	・耳鼻科に受診する。

⑬　虫さされについて

種　類	症　　状	手　　当
蜂	痛みが強く、腫れがひどい。 ※スズメバチの場合 　　過去に刺されたことがある場合は、アレルギー性のショック症状に注意する。	・毒針が残っていたらとげ抜きで取る。 ・患部を水で洗い、抗ヒスタミン軟膏を塗り、冷やす。
蚊・ダニ	小さい紅斑、腫れ、かゆみ	・抗ヒスタミン軟膏を塗る。
毛虫・毒蛾	かゆみ、発疹、後にじんましん様の皮膚炎が出ることあり。	・こすらないで、テープ等で毛を除去する。 ・シャワーで全身をキレイに洗う。 ・洋服を交換し、ビニール袋に入れる。 ・抗ヒスタミン軟膏を塗る。 ・症状を見て皮膚科に受診する。

※　職員は、保護者会と共に、３年に１回は消防署の救急法及び蘇生法の講習を受けるのが望ましい。

衛生管理

（本館）

<table>
<tr><th>状　態</th><th>手　　当</th></tr>
<tr><td>床</td><td>・各部屋とも毎朝、年長児が雑巾がけをする。
・午睡前には、各部屋とも掃き掃除をする。
・食事後のテラスは掃き、雑巾がけをする。</td></tr>
<tr><td>棚</td><td>・週１回（土曜日）水で拭く。</td></tr>
<tr><td>便（床）</td><td>・その都度、チリ紙で拭き取りトイレへ流し、雑巾を使用して水で拭く。</td></tr>
<tr><td>尿（床）</td><td>・その都度、雑巾を使用して水で拭く。</td></tr>
<tr><td>嘔吐物</td><td>・チリ紙で拭き取り、指定のビニール袋へ入れ、しっかり結び、外にあるポリ容器の中のごみ袋に入れ、雑巾を使用し、湯（水）で拭き、消毒し、清拭する。</td></tr>
<tr><td>寝具類</td><td>・汚れたらその都度専用タオルで拭き取り、日光に干す。
・毎週家へ持ち帰り、洗濯、日光に干してもらう。</td></tr>
<tr><td>浴室</td><td>・使用の都度、浴用洗剤で洗う。</td></tr>
<tr><td>トイレ・手洗い場</td><td>・毎日洗浄剤で洗う。
・女性用ごみ箱、壁、ドア、取手も必要に応じて拭掃除をする。</td></tr>
<tr><td>汚れ物入れポリバケツ</td><td>・必要に応じて洗い、洗浄後日光消毒する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">※　しっこでぬれたパンツ等は水で洗い、子どものおしりも水で洗う。
※　パンツについた便は、便器に落とし、パンツは石けんで洗い、子どものおしりも石けんで洗う。</td></tr>
<tr><td>テーブル・イス</td><td>・その都度水で拭き、必要に応じて消毒する。
・テーブル拭きタオルは、食後洗剤で洗う。</td></tr>
<tr><td>押入</td><td>・週１回拭掃除をする。</td></tr>
<tr><td>水場</td><td>・週１回洗浄剤で洗う。</td></tr>
<tr><td>玄関</td><td>・毎日掃き掃除をする。</td></tr>
<tr><td>靴箱・本棚・電話台</td><td>・週１回拭掃除をする。</td></tr>
<tr><td>窓</td><td>・レールは毎日、夕方、小ほうきで掃除する。
・週１回ぬらした窓拭き専用雑巾で汚れを落とし、乾いた雑巾で水滴を拭き取る。</td></tr>
<tr><td colspan="2">※ノロウィルスが疑われる便や嘔吐物の汚れは、必ず次亜塩素酸系（カルキ・ハイター）で消毒する。</td></tr>
</table>

衛生管理
（別館）

状　態	手　当
床	・朝、ほうきまたは掃除機をかける。 ・１日２回（食後、おやつ後）水で拭く。 ・週１回調乳室や部屋の仕切りを取り拭く。
棚	・週１回（土曜日）水で拭く。
畳	・週１回雑巾を固く絞り拭き、日当消毒をする。
便（床）	・その都度、チリ紙で拭き取りトイレへ流し、雑巾を使用して水で拭く。
尿（床）	・その都度、雑巾を使用して水で拭く。
嘔吐物	・チリ紙で拭き取り、指定のビニール袋へ入れ、しっかり結び、外にあるポリ容器の中のごみ袋に入れ、雑巾を使用し、湯（水）で拭き、消毒し、清拭する。
おしゃぶり類	・毎日湯（水）で拭いて日光消毒する。
口にしない玩具類	・週１回水で拭く。
寝具類	・汚れたらその都度専用タオルで拭き取り、日光に干す。 ・毎週家へ持ち帰り、洗濯、日光に干してもらう。
おけ	・使用後水で洗い、日光消毒する。
沐浴室	・使用の都度、浴用洗剤で洗う。
浴室	
便器・汚物洗い場 手洗い場	・毎日洗浄剤で洗う。
おむつ入れポリバケツ	・その都度洗い、週１回洗浄後日光消毒する。
※　尿で取り替えたおむつは、水洗いしてポリバケツに入れ、子どものおしりも水で拭く。 ※　おむつについた便は、便器に落とし、おむつは石けんで洗いポリバケツに入れる。 ※　おしり拭きタオルは午睡時に洗う。	
テーブル・イス ラック	・その都度水で拭く、必要に応じて消毒する。 ・テーブル拭きタオルは、食後洗剤で洗う。
押入	・週１回拭掃除をする。
玄関	・その都度掃き掃除及び週１回靴箱等の拭掃除をする。
テラス	・毎朝、掃き掃除をする。ぬれていたら拭き取る。
水場	・週１回洗浄剤で洗う。
窓	・週１回ぬらした窓拭き専用雑巾で汚れを落とし、乾いた雑巾で水滴を拭き取る。
※ノロウィルスが疑われる便や嘔吐物の汚れは、必ず次亜塩素酸系（カルキ・ハイター）で消毒する。	